



真宗大谷派 東岳山
安泉寺

〒496-0945
愛知県愛西市三和町中ノ割173-1
TEL: 0567(28)0001
Mail: dai5noro@gmail.com

登録してね



ANSENJI.AISAI



2025年

12
月号

NO.177

泉 -IZUMI-

掲示版・お知らせコーナー
各種案内チラシ

それでも人生には意味がある15.

勝田茅生

民芸と真宗

野呂美道

教え子

野呂美道

花輪

野呂美道

本山納骨

野呂美道

百折不撓「べしやり会」

野呂大悟

表紙「本山団参・芙蓉園で食事」

―目次―



懐石の膳 彩るや 紅葉旅

博子

「べしやり会」開催のお知らせ

安泉寺では、かねてより通夜葬儀を本堂で執り行えるよう環境を整備してまいりました。

阿弥陀如来の御前という仏説法の場合は、「いのち」の別れを惜しみ、故人の生前の生きざまを偲ぶと共に、残された私たちが「今をどう生きるか」*という本質的な問いに向き合うに最も適した場所だと考えています。

数十年前までは、通夜葬儀はご自宅で執り行われるのが主流でした。住み慣れた家、馴染み深い地域の中で、顔見知りの方々に囲まれて見送られる二日間、ご家族だけでなく、地域社会全体にとって大変意義深い時間でした。

現代は、ご家族のあり方や働き方も多様化し、すべてを昔ながらの形で残すことは困難です。しかし、この地域に葬儀に最適な場所がある以上、安泉寺は、門信徒の方々すべての方に本堂を解放したいと考えています。この活動において、常に連携させていただいているのが、東海典礼株式会社です。

この度、東海典礼株式会社の代表より、ざっくりばらんな意見交換を目的としたお茶会、*「べしやり会」*を安泉寺の本堂で開催したいとの打診がありました。

なぜ「べしやり会」を開催するのか

*東海典礼の代表と話をして…

この会の背景には、常に「人の死」に直面するご

遺族への配慮があります。

大切な方を亡くした悲しみの中で、残されたご家族は、葬儀の形式、参列者の範囲、祭壇、そして費用負担など、短時間で多くのことを決定しなければなりません。そんな時、ふと「故人の最期の願いは何だったのだろうか」という想いがよぎることも少なくありません。

もし生前に、故人自身の希望（費用面、形式、参列者など）が明確になっていれば、ご遺族は悲しみの中、余計な心労を負うことなく、故人の意向に沿ったお見送りができるはずです。この「べしやり会」は、まさにそのような事前準備へのきっかけ作りの場となってほしいという願いが込められています。

私たちは「死」を避けたり、不浄なものと捉えがちです。しかし、自らの命の終わりと向き合うことは、そのまま*「今、この瞬間をどう生きるか」を考えることに繋がります。「死」があるからこそ、「いのち」の尊さや、「生きていること」の「有り難さ」*を感じられるのではないのでしょうか。

ご自身の通夜葬儀に関する疑問や困りごと、希望などを、ざっくりばらんに話し合ってみませんか。

開催日時とご案内（詳細は別途チラシをご覧ください）

・ 日時：12月14日（日）13時より

・ 場所：安泉寺本堂

・ 主催：東海典礼株式会社

・ 参加費：無料

報恩講が勤まった後に、そのまま本堂で実施いたします。少しでも興味・関心のある方は、どうぞそのままお残りください。

◆十月二十五日付け中日新聞二十頁に次のような記事が載った。◆八月に父や祖父母を含めて七人分の遺骨を東本願寺（京都市）に納めた。離檀を考えたのは、三年前に母が亡くなった際、高額のお布施を求められたからだ。「三回忌でも、相場を調べて準備したお金を『少ない』と言われた」◆妻（四十）との間に二人の子がいる。「自分の次に墓を継ぐのは子どもたち。負担をかけたくない」。海洋散骨も検討したが、「遺骨を残したい」という家族の思いや、相談した業者の提案で本山納骨を選んだ。◆とはいえ、一筋縄ではいかなかった。「寺に離檀料六十万円を請求され、業者の対応で十万円に、解体も重機が入れず人力になった」。約百七十万円かったが、「やって良かった。きちんと供養でき、遺骨がそこにあると安心感もある」。◆私は信じられない気持ちで一杯だった。他宗派から安泉寺に帰属したある檀家は、離檀料五十万円を即金で払い、法外な墓の撤収料も自己負担だったと聞く。簡単に檀家を代わらせない寺院からの嫌がらせと受け取られても当然。記事の寺院は真宗大谷派と判明して、はらわたが煮えくり返った。◆安泉寺のことを話したい。安泉寺では離檀料などというのは一切ない。また、檀家になつていただくときも一切お金はかからない。墓じまいの撤収は各自でお願いするが、数十万で収まるはず。また、安泉寺では合同墓も完備していて、どんなのお骨でも、二万円で納骨できる。墓地は数基の余りがあるが、一平方メートル四方が一基で、七万五千元で分譲している。どこよりお値打ちだ。◆また、安心して葬儀ができるように、寺院葬を勧めて

いる。他の葬儀会館より、はるかに安価で葬儀ができる。通夜や本葬のための施設も完備しているの
で、アットホームな葬儀ができる。式場は本堂を充
てるので荘厳そのものの、たとえ家族葬でも、立派な
葬儀ができる。使用料はわずかに十万円。◆真宗大
谷派のために申したい。親鸞聖人は、最も貧しい底
辺の庶民に目を向けられた。浄土往生できるはずも
ない人々にこそ、阿弥陀仏の本願（浄土に迎えよう
という心）が最も強く働いているはずだと生涯かけ
て説かれた。◆その真宗が先程のような寺院に堕ち
てしまっていることに私は深い憤りを感じた。そう
でない寺もあるよ
と、皆さんに訴え
たい。それが安泉
寺をお預かりして
いる私たち家族の
矜持（プライド）
だ！



◆十月十九日・中日新聞・人生の頁、伊藤恵深氏の文より引用する。

◆お母さんが子どもに「しつかり勉強しなさい」と口うるさく言っています。そこで子どもが「どうして勉強しなくてはいけないの」と聞くと、お母さんは「良い学校、良い大学に行くためよ」と答えました。すると「どうして良い大学に行かないといけないの」と聞き返します。「もちろん、良い会社に就職して、お金持ちになって、偉くなるためよ」と答えます。子どもはさらに訪ねます。「どうして偉くならないといけないの」「それはね、死んだときに、たくさんのお花輪が並んだ盛大なお葬式をしてもらうためよ」。子どもは「なーんだ、僕は花輪のために勉強しているのか。じゃあ、やつぱりやらないう」。◆

◆この文章に思わず笑ってしまった。でも、世の親はきつと子どもにこのような話をしたことがあるに違いない。子どものためを思っている親の気持ちは分からないではないが、あまり効果のない話だと思う。◆私たち夫婦には三人の子どもがいるが、振り返ってみると、あまりこのような話をした覚えがない。三人とも勉強は不得意な方だった。親はそのことはとつくに諦めていた。そのかわり、私たちは何も言わないで、できるだけ子どもが興味を持つことをやらせてみることにした。◆長女は高校の時、突然美術に目覚めた。絵を描きたいというので、美大に進んだ。でも、今は全く違う仕事をやっている。長男はお寺を継がせようと、色々私たちは仕掛

けてみたが、全く関係ない大学で音楽に狂った。はらはらしたが、最後には寺に戻ってくれて、就職し、結婚もした。◆次男は運動系の高校から大学は真宗大谷派の別科という二年コースで学び（実際は全く学んでいないが）ちゃっかり就職も決めて、今ではスーパールのバイヤーを嬉々としてやっている。◆皆、それぞれの人生の中で、自分が決断した道に進み、意欲的に頑張っている姿を見ると、親が「ああせい、こうせい」と言わなかったことが良かったと今では思う。◆人生はクロスロード（十字路）ゲームだ。いつもどちらかの選択を迫られている。どちらに進んだとしてもうまくいくとは限らない。でも、進んだ道を自分で引き受けることが、本当の学びとなるのだ。◆親は相談にはのっても、最終的には本人が決めるように促すことが一番だ。



◆相次いで、柔道部の教え子と会った。一人は石川君、多度出身の元気な子だ。といっても今は48才、安泉寺住職よりも一級先輩だ。◆彼は在学中はクラスやクラブのムードメイカーだった。〇八丁で、インターハイの切符を手に入れた。当時、勝てないだろうと思われていた同朋高校柔道部の県予選で、彼が部員を乗せまくって、強豪を破り優勝してしまった! ◆柔道は決して強いほうではなかったが、〇がうまく、部員の雰囲気大いに盛り上げた。チームはそれで、島根県の益田市で行われたインターハイに参加した。◆顧問の田村先生(故人)とともに、私も部員を乗せて、ミニバンで島根まで同行した。◆石川君は「愛宕荘」という割烹店をやっていたが、忙しすぎて、店をたたみ、今は建築足場の資材を扱う仕事に従事している。◆私の顔を見て落涙し、また再開を誓って、大型トラックとともに去っていった。◆もう一人の教え子は半田出身の榊原君。彼は苦勞して同朋高校を卒業した。3年間クラスで面倒を見、仲人もした。その彼が、パーキンソン病を患い、私に会いたいと奥さんから連絡が入った。◆半田の魚料理の店で、美味しい食事を取りながら、懐かしい話をした。まだ54才の彼が若年性のパーキンソン病を発症して、奥さんは介護疲れから、一緒に死のうとまで思い詰めたそうだ。◆その時に、私が二人の門出を祝って述べた言葉が、それを思いとどまらせ今日に至る、と奥さんは感謝を込めて言った。当時の学級通信を繰ると、その文があったので、紹介する。◆上ばかりみてたら

首がだるい 下ばかりみてたら 首がきつい 横もそうやろ にんげんというもんは まっすぐ前をみて 生きていくように なってんねん 上をみても 下をみても きりが無い ええことばや (大川フサ子 人生楽々) ◆私が放った言葉が夫婦の生きる支えになっていることに驚いた。どこかの国の総理の放った、たった一言が近隣の諸国の逆鱗に触れ、アジアがぎくしゃくする原因を作っていることを深く憂慮する。◆榊原夫婦は誠に純朴な人間で、私はこの年になって、会いたいと言ってくれる教え子を持ったことに感動した。◆それにしても、言葉の持つ不思議な力に驚かざるを得ない。私たちは知らず知らずに人を傷つけ、あるいは励まし、そのことすら忘れて平然と生きている。悲しきかなや……



◆前々号で紹介した建築家の坂茂氏が昨年豊田市に博物館を作ったという情報を得て、是非行きたいと機会をねらっていた。それが11月上旬に実現した。近隣の間伐材を集成材として活用し、素晴らしい木造と鉄筋の建物を創造した。

◆しばし、その造形美に浸っていた私は、偶然近くに「民芸館」があると聞き、ついだに尋ねることになった。ところがナビの表示は正確でなく、苦勞してたどり着いた。◆田舎の公園の下に3棟の民芸館がひっそりと建っていた。私が民芸に興味を持って数年たつ。



創始者の柳宗悦（やなぎむねよし）は、日本中を歩きまわって、名もなき人たちが、日用に使う道具を残している、その素朴な道具の中に、本来の美を見出そうと考えた。◆「民芸」とは、柳の創作語で「民衆的工芸品」の略。芸は本来「藝」の文字を充てる。その仲間として、浜田庄司や河井寛次郎といった陶芸家や、イギリスのバーナード・リーチなどがあげられる。◆私が気に入っているのは、名もなき庶民が日用のために淡々と作った工芸品、たとえば、陶器、織布、木工品、箆、鉄瓶、などの何気ないものの中に、静かな美を見出すという考え方だ。◆さて、さらにその考え方を深めると、版画家の棟方志功などもその中に入るだろうか。しかしながら、棟方は世界的な版画家で、民芸とは一線を画する作家と思うが、庶民性は確かにある。◆富山市

の南砺市にある大福寺の住職、太田浩史氏によれば、職人が作り出す数々の日用品には「土徳」が働いているという。土徳とは、その土地に住む人々が自然から受け取る知恵や生き方、風土ともいえるものだ。その中から、その土地独特なものが生み出される。さらに言えば、その土地が育む大いなるものの働きによって、職人は自分が救われたものとしての証しを民芸品として残す。◆浄土真宗も北陸の南砺市に深く根付いた。土徳の考え方と、すべてのものを与えてくれる大いなる力とは多分に真宗的だ。◆先程の棟方志功は、この地に生活する中で、真宗の教えと深くかかわった。彼の作品群の中で、仏教・真宗にテーマを置く数々の作品があるが、私はそれらはこの地が生んだ土徳のひとつの顕れと見る。◆民芸は、決して鑑賞するのみではない。老若男女が唱えるお念仏のように、いつでもどこでも誰でもが、普段使いをしなれば、本来の民芸とは言えないと思う。



第二章 苦悩を生き抜く5

◎ 心を守るための「自己距離化」

◆強制収容所における非衛生的な環境と非人道的な扱い、そして過酷な労働と栄養不足に耐えるのは、どれほど「意味への意思」があっても簡単なことではありません。◆彼の取った作戦の一つは、自分の苦しみや悲しみから「距離を置く」ことでした。誰かから「強制収容所にいる人々の心理を観察してほしい」と依頼されたかのように想像してみることでした。悲惨な状況に対して感情的になるのではなく、それを冷静に観察して客観的に捉えようとしたわけです。◆このような精神的次元の働きを、フランクは「自己距離化」と呼びました。「自己距離化」をどのように実践したか、彼はオランダで戦後初の講演をしたときに明かしています。◆「苦しみを客観的に見ることで、私たちを取り巻く苦悩のすべてから距離を保とうと、私は何度も何度も繰り返し試みました。今、思い出すのは、ある朝収容所から隊列を組んで強制労働に送り出されるときのことですが、空腹、寒さ、そして飢餓のために足が腫れ、そのために先の空いた靴に突っ込んでできた凍傷と化膿の痛さは、ほとんど耐えられないほどだったのです。この状況は絶望的で、ひとかけらの希望もありませんでした。そのときに私は、自分がどこかの大きくて素晴らしい、また暖かく明るい講堂の

壇上に立って『強制収容所における心理治療上の体験』というタイトルで私の体験したことすべてを話しているところを想像してみました。皆さん、信じていただけるでしょうか。私は当時、本当にそのような講義をすることになるとは一時たりとも望むことはできなかったのです。◆自分が過去に想像したことが現実となり、まさに今、暖かく明るい講堂で講演していることに、フランクは感動したはずですよ。◆人は誰でも「自己距離化」によって、ネガティブな感情から距離を置くことができます。自己距離化の能力を高めると、苦しみや悲しみに心を痛めつけられずに済むのです。それによって体の抵抗力が上がり、病気にかかりづらくなるのとさえあるので





お知らせ コーナー

十二月の予定

大成講	一日(月)
おみがき	六日(土)
コウノトリ会・防災会議	七日(日)
報恩講	十三日(土)・十四日(日)
べしやり会	十四日(日)
環境保全看板描き	二十一日(日)
除夜の鐘撞き	三十一日(火)

今月の掲示板

見て知りそ
知りてな
見そ
(見てから学べ
学んでから見て
はいけない)

柳宗悦

◆民芸運動の創始者、柳の言葉です。本号六頁を参照してください。直感が大切で、予備知識は本来の美を味わうのを妨げると彼は言っています。

いずみのほとり(老僧)

◎11月から例年、愛西市自治基本条例を知ってもらう為に、愛西市の6つの中学校で出前授業を行っています。中学生は孫のようでも可愛いのですが、ここ数年生徒のことで感じることはありません。まず、愛西市の形を描けない生徒が多くなりました。そして、6つの中学の名前を言えない生徒も多いです。◆原因を私なりに考えてみました。コロナ禍で、他校との練習試合も激減しました。それ以上に、今の中学生たちは自分たちの狭いエリアでSNSなどを通して、関係ある者同士の情報しか手に入っていないのではないのでしょうか。◆新聞やラジオ・テレビも見ない。もっぱらの関心事は若者しか通用しない文化。社会性はSNSで身に付くようですが、それも疑問。◆私の考えが杞憂であればいいのですが、今の社会の傾向、個人情報情報を漏らさない、かわりを持ちたい状況は私には少し心配です。◆もし、災害があった時など、世間とのコミュニケーションが欠如したままですと、誰を助けたらいいのか、さっぱり分かりません。少なくとも隣近所や町、市の最低限の情報は年齢を問わず共有すべきではないでしょうか。

◎最近、コウノトリを見たという情報が途絶えてしまいました。昨年の今頃、私は5羽のコウノトリが餌をついばんでいる光景に圧倒されました。◆放鳥した3羽の幼鳥もさつさどこかへ飛んでいったようです。しかし、きっと彼らは戻ってくると思っています。そのため鳥にも人にも良い環境を整えたいものです。



安泉寺

お寺で 年越し

愛知県愛西市三和町中ノ割一七三
☎〇五六七二八・〇〇〇一
*駐車場あります

除夜の鐘

2025

12/31 [水]

23:30-25:30

一年の終わり・新たな年の始まり。お寺で美しい鐘の音を聴きながら過ごしてみませんか。善哉・甘酒・お菓子の掴み取りなども用意しております。

修正会

2026

1/1 [木]

10:00-11:00

一年のスタートはお寺から。お勤めをして、心静かに手を合わせ、新たな一年に向けて、思いを巡らせてみるのはいかがでしょうか。

12/30・31に安泉習字教室の生徒の皆さんが作成したキャンドルでキャンドルナイトを実施いたします。

MAPはコチラから→



- 安泉寺 -

12月

13日(土)~14日(日)

報恩講

真宗大谷派の報恩講（ほうおんこう）は、親鸞聖人の教えに触れ、そのご恩に報いる場として、広く信徒の皆さんが集まりお勤めをする大切な法要です。報恩講では、親鸞聖人が生涯を通じて示された仏法の道を今一度思い返し、感謝と報恩の心を新たにすることがとなります。

12/13
(土)

お逮夜 御俗抄拝読
14:30 ~ 15:00 ~

12/14
(日)

晨朝 呈茶 満日中・登高座
6:00 ~ 9:30 10:00
法話 お齋
10:45 ~ 12:15

どなたでも
お参り頂けます

講師
紹介



北村雄平 師（浄流寺住職）

岐阜県の岐阜県の郡上八幡にある真宗大谷派浄流寺住職。
在家より僧籍を得て、家族で郡上市の古刹に入寺。現在、岐阜県の多治見市に支院を設け活躍中。

真宗大谷派 東岳山 安泉寺

WEB: <https://www.tougakuzan-ansenji.com/>

Mail: dai5noro@gmail.com Tel: 0567-28-0001

〒496-0945 愛知県愛西市三和町中ノ割173-1



第01回

べしやり

お茶会

2025

安泉寺

お寺でほっと一息。
みんなの『これから』を語る場

12.14 用 参加無料

開催時刻

場所

安泉寺

愛西市三和町中ノ割 173

13:20～15:00

お問い合わせ

☎ 052-806-4111



これからをよりよく
生きるための
情報収集と
仲間づくりに



京都 伊藤久右衛門おすすめ

挽きたて宇治抹茶を贅沢に使用した

和のスイーツをお召しあがりいただけます。

進行スケジュール

13:10-13:20

受付(参加無料・飛び込み参加OK！)

13:20-13:25

主催者挨拶

東海典礼グループ植木 利典

13:25-13:30

ウォームアップ

「今日ここに来ようと思った理由」を皆さまから一言ずついただきます

13:30-14:30

お茶・和菓子を **みながらフリートーク**
嗜

京都の名店「伊藤久右衛門」から直送！

テーマカードを配って自由に話しやすくなっています」

- ・ “もし100歳まで生きたら？”
- ・ “葬儀で流してほしい曲は？”
- ・ “大切にしたい家族の習慣は？”
- ・ “自分が安心できる老後って？”

14:30-14:50

終活ミニワーク

- ・ やってみたいリスト作成 大切な人に一言書くメ
- ・ モ エンディングノートの1ページだけ書いてみよ
- ・ う

14:50-15:00

質問タイム

葬儀・お墓・仏事・お寺のことなど